



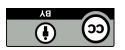
iii Level 3

əsəuede 🗇

Yuka Makari ø Meghan Judge Lindiwe Matshikiza

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0 Attribution 4.0 International License.

This work is licensed under a Creative Commons



children's stories in Canada's many languages. Storybooks Canada in an effort to provide (africanstorybook.org) and is brought to you by This story originates from the African Storybook

> Translated by: Yuka Makari Illustrated by: Meghan Judge Written by: Lindiwe Matshikiza

千〇八口

storybookscanada.ca

Storybooks Canada



千0%口



ある日のことです。小さい女の子が遠くのほうに不思議な形をしたものをみつけました。



き大む子の文、きろさきアンで近れ後の子 しまきかが表とは大婦女はななだと気が付ままし さ



その女の子は恥ずかしがりやでしたが、勇気を出して妊婦さんに近づきました。女の子や女の子の家族たちは、その妊婦さんを しっかり守ることに決めました。



ロバと彼のお母さんは一緒に成長し、暮らしていく方法をたくさん見つけていきました。ゆっくりではあるけれど、周りの家族も徐々に彼らのことを受け入れていきました。



よんれ。もづくそれま土もこ今わんかさ赤 手」し!当人も畔」。こりまり個を文砂た しいづけらよさを水」し!フ考フにもを赤 し!!!!———丁一畔



ς



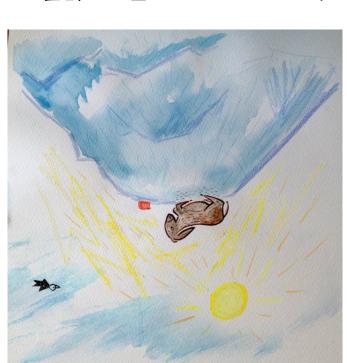
しかし、赤ちゃんが出てきたとき、彼らは 驚き飛び跳ねました。「ロバ?!」



ロバはついに自分がどうするべきかがわかりました。



みかさ赤もとこの文刻れされ杯「れたみん ら刻、'とれけしをしたける、 とがい童コをうてらも多軍い悪コも土体れ は私たちに悪い地をもってくるに違いな。 よいまながい言と「い



はるな愛篤、 き雲、 おにもとさき述がいロ。 。 けしまいて になくなっていました。

L



彼女はまた一人ぼっちになってしまいました。彼女はこのかわいそうな赤ちゃんをどうやって育てればいいか、自分はどうするべきか、わかりませんでした。



彼らは雲の上で眠りに落ち、ロバはお母さんが病気になり、自分のことを呼んでいる 夢をみました。



あづもとその代首がいロ , お女教 , しかし り、自分はロバの母親であることを受け入 れなければなりませんでした。



できる。 かりは、 かいこうかんにしいくようお願いをしましまして。 なっかんにしいくようお願いをしまして。 なっかんにしいくにしいい。 はしいくにしいいといい。 でものは、 かいこうないない。



その子どもが小さいサイズのままであれば、すべては違っていたでしょう。しかし、そのうちにその子どもは彼女がおんぶできないくらい大きくなってしまったのです。そしてその子はどんなにがんばっても人間と同じ行動ができるようにはなりませんでした。母親は疲れ、イライラして、自分の子どもを動物に接するように扱いました。



おじいさんはロバに生き抜くためのたくさんの方法を教えてくれました。彼はその教えをよく聞き、学びました。彼らはお互いに助け合い、笑いあって時を過ごしたのです。



人、ス人、とこかいのい口もないと人と人、なんなこかのでしました。 ここ同と間人もかい口。 けれなもにしてもの間人、しいなきでおい ロコいして、それい怒 サーキ キュコにまけい 。 けしまいましてに触る人を母ももがい



いおいなら成れによう、考とけ考録がい口まいかったのではといいをいいかいからないからいいないにはないにはないにはない。するいい中の館のみないいは、ともも、よいいたのではないないないないない。

ll



ロバは自分のしたことに対し恥ずかしい気持ちでいっぱいになり、精一杯の速さでその場から走り去ってしまいました。



気がつくとあたりはすっかり夜になり、ロバは道に迷ってしまいました。「ヒヒーン…」彼は暗闇のなかささやきました。「ヒヒーン…」それは後ろにこだましただけでした。彼はひとりぼっちでまるくなり、深い、悲しいねむりにつきました。